

子の病気 大人にも流行

はしかが大人を中心に流行し、百日せきの成人患者も増えている。子どもがかかる感染症が、なぜ大人にはやるのか。大人でも予防接種が必要なのか。はしか・百日せき・水痘の三つについて、専門家に聞いた。

●ワクチン接種 専門家に聞く

区切り「30歳と50歳」

●はしか

割以上で、愛知でも24人中、10歳未満の患者は2人しかいなかった。

はしかが今春、沖縄や愛知で流行した。今年だけではない。2016年には千葉や大阪、17年には広島、山形などで流行した。幼い子の病気と思われがちだが、沖縄では発症した約100人のうち20歳以上が71〜5歳の間に1回接種す



日本感染症学会・日本化学療法学会の合同学会で開かれたはしかの緊急シンポジウムは、早朝にもかかわらず開始前から満席になった＝1日午前7時30分、岡山市北区駅元町



る定期接種が始まった。何年度もの全国流行を経て、2006年から1歳と就学前

乳児の感染源にも

●百日せき

百日せきは今年から、国への届け出基準が大きく変わった。以前は、全国約3千の小児科が報告し、その数から流行動向を推計していたが、新基準では、全医療機関が診断した全患者を報告する必要がある。

長引くせきを単なる風邪や花粉症などと思ひ込み、医療機関に行かない人も少なくない。厚生労働省研究班の調査では大人の長引くせきの3割は百日せきだといふ。これらの人から赤ちゃんにうつると重症化し、突然死する恐れもある。

定期接種は3カ月からそれ以前の乳児を守るには周囲の大人が百日せきにかからないことが重要だ。中野さんの外来には、米や豪で出産した娘を手伝いに渡航するという「孫育てデビュー」世代が百日せきの予防接種に来る。これらの国は新生児を迎える家族は接種するよう呼びかけているからだ。

日本では、幼児期以降の百日せきワクチンをどうするか、議論はまだ不十分だと中野さんは言う。「届け出基準の変更で、実態を把握できるようにする。議論する準備がようやく始まったばかりです」

の2回接種が定期化され、08〜12年度は当時の中高中生も定期接種にした。この歴史の中で①定期接種の機会がなかった人(1972年10月1日以前生まれ)②接種機会が1回の人(90年4月1日生まれ)③2回の人(それ以降生まれ)が混在している。

沖縄や愛知からの報告によると、両県で今年発症した大人は、ほぼ全員が未接種か1回接種だった。1回接種の患者は症状が軽く、他の人への感染源にもほとんどなっていない。未接種者が感染を広げていったとみられるという。

どう対処するか。川崎医大総合医療センター(岡山市)の中野貴司教授は「30歳と50歳で区切ると分かりやすい」と話す。今、30歳以上50歳未満の人は、母子手帳などで2回接種した記録がない場合、少なくとも1回は接種したほうがいい。50歳以上の人は接種の優先度は低い。ただ、医療や福祉、教育の分野で働く人は、確実に免疫をつけておく必要がある。愛知では、病院に勤める人が来院患者から感染した。多屋さんは「かかった記憶がある」と思っている人は抗体検査で確認し、接種記録が1回だけの人はあと1回受けるよう強く勧める。「記憶より記録、が鉄則です」

50歳以上も対象に

●水痘

水痘(水ぼうそう)は2014年、子どもには定期接種になった。16年からは50歳以上の大人も接種できるようにになった。带状疱疹

を予防する目的だ。水痘のウイルスは、水ぼうそうが治った後、神経節に潜伏する特性がある。普段はじっとしているが、加齢や病気などで免疫力が落ちると再活性化し、顔や脇

川崎医大の中野さんによると、大人が接種すると60歳以降の带状疱疹発症率が5割下がるといふ。ただし、弱毒化ウイルスを体内に入れる生ワクチンなので、ステロイドや免疫抑制剤などで免疫力が下がって

腹などの神経に沿って激しい痛みを伴うぶつぶつが出る。ワクチンの普及で国内の小児患者が減ると、はしかのように流行国からの輸入や軽症の大人の潜在など、新たな問題が現れます。幸いのはかの流行は収まりつつあります。「流行が過ぎつつある時こそ、備える時」。取材した中野さんの言葉です。恐れすぎず、忘れず。感染症と闘う王道だと思えます。(中村通子)



ワクチンの普及で国内の小児患者が減ると、はしかのように流行国からの輸入や軽症の大人の潜在など、新たな問題が現れます。幸いのはかの流行は収まりつつあります。「流行が過ぎつつある時こそ、備える時」。取材した中野さんの言葉です。恐れすぎず、忘れず。感染症と闘う王道だと思えます。(中村通子)